



超高压実験室内部

沼津新工場の開設

FUJIKURA HISTORY

戦後から高度成長へ：4年連続の倍額増資により、沼津工場や超高压実験室の新開設など、生産・研究設備の拡充が進む。昭和30年代、日本は神武景氣を迎え「もはや戦後ではない」経済成長の時代に入り、業界も当社も順調な発展を遂げる。

Shaping the future with "Tsunagu" Technology.

FUJIKURA NEWS 2019 No.450 1



新年のごあいさつ
本年もよろしくお願ひ申し上げます



取締役社長 伊藤 雅彦

皆さん、明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、私の思うところを述べたいと思います。

昨年のわが国経済は、企業業績や雇用環境・所得の改善などが続かなかで、全体として緩やかな回復傾向で推移しました。海外においては、米国トランプ大統領が対中国製品の関税引上げなどの政策を実施し、単なる貿易不均衡の是正に留まらず、世界の枠組みが変化するとの見方もあるほど、その影響の波及が懸念されています。

2020中期経営計画ゴールに向けての取組みについてお話しします。

2016年度～2018年度上期の平均営業利益率は4.7%です。20中期計画のゴールである7.0%とのギャップを埋めるために、以下の戦略的対応をとっていきます。

- ・情報通信事業ではお客様の地域毎、用途毎に異なるニーズに即した商品開発を強化して高付加価値化を図ります。具体的な例として、SWR/WTCは欧州市場向けに圧送空気敷設用のWTCを開発しました。また、高難燃性WTCや6,912心/200μmファイバの超多心WTCの供給も開始しております。
- ・エレクトロニクス事業では、IoT/AI技術を導入した自動化の比率を上げる等により歩留り改善を行い、利益率の向上に努めます。

- ・自動車電装事業では各ブロックのワイヤハーネス事業の収益力の再生を進めるとともに、次の中期に向けたNon-EDS製品や新エネ車(特にEV)への対応強化を進めて収益率の改善に努めます。

研究開発については、研究開発プロジェクトの選択と集中を更に一歩進めます。事業収益の観点から有望なプロジェクトに開発資源を集中させ、既存事業における技術基盤強化と革新的商品の開発、および、新しい技術基盤構築による新規事業の早期創成を推進します。

ファイバレーザは既に事業化を果たしていますが、更なる競争力の強化に向けて差別化技術の開発に取り組みます。ミリ波については、早期事業化に向けて基盤技術と商品開発、および、オープンイノベーションを最大限に活用したビジネスモデルの開発に注力します。また、超電導は2020年度の事業化に向けて量産技術開発に注力します。その他の研究開発プロジェクトについても、外部機関とのコラボレーションを推進して効率的な開発をおこない魅力ある差別化商品の創出を目指します。

本年もフジクラニュースを通して、当社グループの新商品・新技術などを紹介して参りますので、皆様の変わりぬご愛顧を賜りますようよろしくお願いいたします。

2019年元日



エネルギーハーベスト型 LoRaWAN™センサノードを販売開始

当社は、IoT無線センシングをより広範囲なエリアへ適用可能とするために、LPWA (Low Power Wide Area) 技術の一つであるLoRaWAN™方式の無線を搭載した「エネルギーハーベスト (EH) 型LoRaWAN™センサノード」を開発し、2019年1月より順次販売を開始いたします。

このセンサノードは、周囲の光から効率よく電力を得られるエネルギーハーベスト・デバイスである「色素増感太陽電池 (DSC: Dye-sensitized Solar Cell)」を電源として搭載しています。DSCは、特に屋内照明や屋外の日陰などの低照度環境で、従来の太陽電池よりも高効率で電力供給が可能のため、屋外の日陰程度の照度があれば、十分にセンサノードを駆動することが可能です。加えて、IoTセンシング端末の電源工事や電池交換などのメンテナンスが不要となるため、構築コスト、ランニングコストの両方を抑えることができる新しいIoTセンシング機器です。

センシング項目は、温度、湿度、照度、気圧、の4項目を標準搭載し、屋内センサノードにはさらに人感センサを搭載しており、環境センシングに広くお使いいただけます。オプションにて熱中症指数を計測できる黒球温度センサも提供可能です。

無線方式にはオープンな通信規格であるLoRaWAN™を採用し、ゲートウェイとは、見通し可能エリアの場合、数km~10km程度の距離で通信が可能で、広範囲なエリアをカバーするIoTセンシングを手軽に導入いただけます。当社は、ハードウェアの提供と共に、データの見える化、アラート発報などを行うクラウドサービスも、ワンストップで提供が可能です。我々は今後も新しい技術でIoTセンシングの普及に貢献して参ります。



● 屋内センサノード ● EHユニット+ 屋内センサノード ● 屋外センサノード EHユニット一体型



● 千葉県佐倉市内無線環境フィールド実験

● 主な仕様

項目	屋内センサノード	EHユニット	屋外センサノード
本体サイズ※突起部含まず	97 (W) × 70 (H) × 23mm (D)	97 (W) × 77 (H) × 23mm (D)	135 (W) × 155 (H) × 85mm (D)
本体質量	約75g	約85g	約720g
電源	一次電池	色素増感太陽電池	色素増感太陽電池 + 一次電池
使用環境	【温度】 -10℃~50℃ 【湿度】 20%Rh~85%Rh		【温度】 -20℃~50℃ 【湿度】 20%Rh~85%Rh 【防水耐性】 IPX4

お知らせ

第56回技能五輪全国大会



「No.38情報ネットワーク施工」
競技会場



当社製融着機での
接続作業

厚生労働省、中央職業能力開発協会、沖縄県主催の第56回技能五輪全国大会が2018年11月2日(金)～5日(月)に開催されました。技能五輪全国大会は、23歳以下の青年技能者の技能レベルを競う大会です。

県内各地の15会場で電子技術系、情報通信系、機械系、金属系、建設・建築系、サービス・ファッション系など42種目に分かれ、日本一を目指して職種別競技が行われました。当社は、豊見城市民体育館で開催された「No.38.情報ネットワーク施工」職種において、光配線施工の資材の提供や競技運営のサポートなど、スポンサー企業として様々な協力を行いました。

精密機器事業部 info-splicer@jp.fujikura.com

融着機専用WEB <https://www.fusionsplicer.fujikura.com/jp>

展示会情報

第3回関西クラウドコンピューティングEXPOに出展します

日時

2019年1月23日(水)～25日(金)
10:00～18:00(最終日は17:00終了)

当社は、1月開催の「第3回 関西 クラウドコンピューティングEXPO」に出展します。

同展は、Japan IT Week 関西として、8つの専門展から構成されている関西最大のIT展示会であり、幅広くIT分野を網羅して開催する、西日本でのビジネス拡大を求める出展社、来場者にとって欠かせない展示会です。

当社は「"つなぐ"テクノロジーの分野で、お客様に最も信頼されるパートナーになる」を合言葉に、世界トップクラスの光通信技術と豊富なラインナップを通じ、光配線の課題である"高速大容量伝送、信頼性、コスト削減、配線ボ

場所

インテックス大阪
2号館 ブース10-53

リユームの低減、^{ふくそう}輻輳問題等”に対して最適なデータセンタ向け構内配線ソリューションを提案いたします。

特に今回は、データセンタ内で使用される配線材料を19インチラックを使用して展示・紹介する他、輻輳対策、保守・運用ソリューション製品の紹介も併せて実施します。

2019 Japan IT Week 関西 内

第3回 関西 クラウドコンピューティング EXPO

光ケーブルシステム事業部 国内技術部 telcon@jp.fujikura.com



432心空気圧送型光ファイバケーブルを販売開始

当社は、独自の12心間欠固定型光ファイバリボンSpider Web Ribbon® (SWR®)を適用した新たな光ケーブルとして、空気圧送工法で布設可能なAir Blown Wrapping Tube Cable® (WTC®)の販売を開始いたしました。

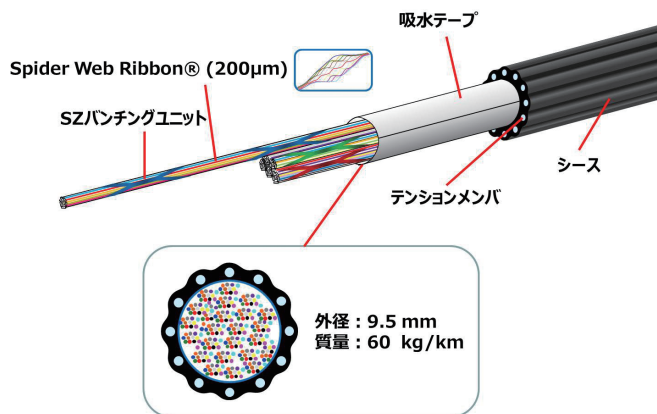
空気圧送工法とは、光ファイバケーブルの布設方法の一つで、ダクト内へ圧縮空気を送り込み、光ケーブルを圧送する工法であり、欧米を中心に広く導入されています。これまでの空気圧送型光ケーブルはルースチューブ構造が主流であり、光ファイバは単心構造であるため、ケーブル接続時の融着作業に多くの時間を要していました。

今回販売を開始したAir Blown WTCはリボン構造であるSWRを用いていることから、接続作業性が優れている特長を有しています。また、200 μ mファイバを用いたSWR

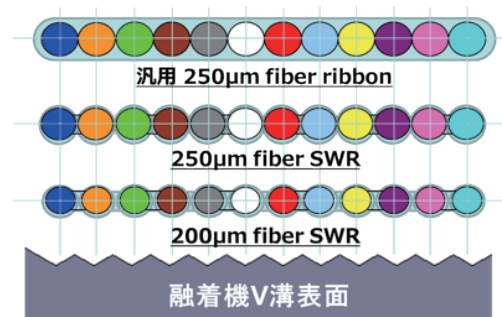
を高密度に実装しており、既存のルースチューブと比較し、細径・軽量化された構造となっています。432心のファイバを実装しながら、外径9.5 mm、質量60 kg/kmを実現しました。さらに、本ケーブルに使用した200 μ m SWRは250 μ mファイバを適用したSWRとファイバ間隔を揃えた構造となっており、既存の融着接続器で200 μ m SWR相互の一括融着接続はもちろんのこと、250 μ m SWRや汎用リボンとの一括融着接続も可能です。

近年、高度情報化社会は急激に進展しており、直接埋設や空気圧送法など様々な布設方法で情報通信網の構築が進められています。当社は今後も多様な製品ラインナップで顧客ニーズに適した製品の開発、製造に尽力して参ります。

● Air Blown WTC構造



● SWRファイバピッチ構造



✉ 光ケーブルシステム事業部

telcon@jp.fujikura.com

Fujikura 株式会社フジクラ Fujikura Ltd.

“つなぐ”テクノロジー 製品ニュース No.450
発行:2019年1月 編集兼発行責任者:森本 朋治
〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1
<http://www.fujikura.co.jp>

営業企画部 TEL:03-5606-1092
関西支店 TEL:06-6364-0373
中部支店 TEL:052-212-1880
東北ブロック TEL:022-266-3344
九州ブロック TEL:092-291-6126

